

SDGs×ESD レポート Vol. 17

ESDは（Education for Sustainable Development）略称で「未来を変える人づくり」を意味します。



発行：NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。はじめに、元日に発生した石川県能登地方を中心とする地震被害に遭われた方々、年始に起きた事故の関係者の方々にお見舞いを申し上げます。困難な時こそESDのネットワークを活かし、全国の皆様と協力して、苦境に立たされている方々を支援していきたいと思っております。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

（事務局・横田）



ESD-J 代表理事による年頭のご挨拶

2024年の年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。2024年は、能登の大地震、日航機と海保機の衝突・炎上という思いもよらぬ幕開けとなりました。ESD-Jを代表して、能登をはじめとして被害に遭われた方々に対して深いお悔やみを申しあげるとともに、被災地の一日も早い復旧と明るい未来に向けた復興を心からお祈りいたします。

2024年はチャレンジの年です。人間の尊厳、人権の尊重はESDの根幹をなすものです。パレスチナ・ガザ地区をはじめとする紛争地域での一日も早い停戦と人道危機の回避が達成されるように私たちは繰り返し声を上げ続ける必要があります。また、2月に開かれる第6回国連環境総会（UNEA6）では、地球が直面する3つの危機（気候変動、生物多様性、環境汚染）にどう立ち向かうべきかが議論されます。2025年の気候変動COP30に向けて、我が国を含む各国はさらに高い削減目標を提示することが求められます。国連で議論されているプラスチック条約は、


2024年末の合意を目指して議論が進められます。

私たちは、それらの困難な課題に立ち向かい、道を切り開いていかなければなりません。そのためには、積極的に社会の変革に向けた取組に参画し、持続可能な社会の構築に貢献するような人材の育成、すなわちESDがますます重要になります。ESDのさらなる普及に向けて、会員の皆さんと力を合わせていければと思います。

ESD-Jは、2022年度から2年間をかけて、その組織基盤強化に向けた取り組みを進めてきました。本年の総会において結論を出し、組織改革を図りたいと考えています。引き続き皆様の温かいご支援とご鞭撻をお願いいたします。



2024年1月
ESD-代表理事
小玉 敏也、鈴木 克徳



ESD-J 主催 オンラインセミナー 実施報告

第3回～第5回を報告します！

2023年10月9日（月） 10:30-12:30

第3回市民調査で持続可能な社会を創る～スーパーマーケット環境調査の結果を活かし、広める～



- 司会：ESD-J近畿地方担当理事・松田 直子
- 講師：NPO法人環境市民・堀 孝弘さん
- 参加者：28名(司会1名、講師1名、事務局3名含む)

講師の堀 孝弘さんより京都市ごみ減量推進会議が2022年に京都市内のスーパー62店（20チェーン）を対象に実施したスーパーマーケット環境調査の結果、プラ削減や省エネな


簡単に結果報告すると

京都市内のスーパーマーケット62店（21社）で、青果物をはじめ、お店のプラスチック調査を行いました。

市民・学生46人とごみ減スタッフ計51人で調べました。

全店、本社の承諾を得て、アポを取ったうえで行いました。

青果物売り場では、よく使う野菜10種の包装について、調べました。



その結果

はだか売りは
2割ほど

プラ包装は、
7～8割



どの好事例についてご紹介いただきました。

そして、ご発表を受け、同調査の教育的な意義、他の地域に広げていく方策、買い物を通じて企業の売り方やモノづくりに影響を与える可能性等について意見交換しました。

参加者からは、以下のような感想

が寄せられました。

- こういった市民調査は大変かもしれませんが、具体的な学びが多く結果もわかりやすく、何より楽しそうだと思います。
- 今回のスーパーの調査は、スーパー（企業）への働きかけ（要請という一方的な圧力ではなくて、企業側に考えてもらうような働きかけになる）とともに、調査員の気づき・目覚めにも大きな効果があり、着眼点が素晴らしいと思いました。
- 市民目線で行う調査の意義がきちんと理解できました。同時に、それを全国に広げようとしている姿勢に感銘を受けました。

- 消費者運動、市民運動が以前よりも下火になっているというお話でしたが、市民調査の実施を契機に、市民が企業に声を届けることや影響力について知ることができたら良いと思います。
- 食べるために毎日通っているスーパーの環境問題に対する取り組みを知ることで、スーパーから学べる世の中になれば住民の意識が変わる気がします。また、スーパー全国調査結果は、大変貴重なデータになると思います。

◆詳細：<https://www.esd-j.org/report/kinkiws/>

2023年12月16日（土）13:30-15:30

第4回ESDとジェンダー ～北九州の事例を基に、ジェンダー平等に向けたESDの可能性を探る～



- 司会：北九州ESD協議会 川島 伸治さん
- 講師：東筑紫短期大学名誉教授 花崎 正子さん
- 参加者：21名(司会1名、講師1名、事務局3名含む)

冒頭に、九州地方担当・三宅 博之理事より、北九州ESD協議会の会員が主権者教育や韓国との交流に積極的に取り組んできたという経緯もあり、今回ジェンダーと関連して下記の3つのトピックを取り上げたことが説明されました。

続いて花崎 正子さんより、ESDとジェンダーの関係について、加えて、日本のジェンダーの現状について様々なデータを基にご説明いただきました。最後に、ポジティブアクションに関連する我が国の法律について紹介され、法整備がなされても現実がそれに伴っていないという課題が強調されました。ジェンダー平等を阻むものとして、性別役割分業意識があり、構造変革・文化を変えることこそジェンダー平等への途であり、そのた

第3回ESD-J オンラインセミナー

ESD と ジェンダー

～ジェンダー平等に向けたESDの可能性を探る～

日時:2023年12月16日(土)14:00～15:30
対象:市民
方法:オンライン
主催:特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)

めに全ての人々の意識変革のための「教育」が重要であると結論付けられました。

続いて、3つのトピックについて、話題提供・意見交換がされました。

- ① 主権者教育について（ファシリテーター：北九州ESD協議会・服部 祐充子さん）
- ② ジェンダー教育と団体活動の関連について（ファシリテーター：北九州ESD協議会・後藤 加奈子さん）
- ③ 韓国の女性活躍支援政策、クォーター制について～韓国との交流を通じて得た情報を通して～（三宅理事）

最後に三宅理事からESDがSDGs全てのゴールに関わっているように、ジェンダーの問題もSDGs全てのゴールに関連しており、ジェンダーの問題を今後も皆様と考えていきたいというコメントで締め括られました。

参加者からは以下のような感想が寄せられました。

- 講師以外の方からの情報も満載で大変勉強になりました。
- ジェンダーが女性の権利と思っている人や、自分に関係が無いと思っている人が多いため、それを自分事化することが鍵だと思います。

◆詳細：<https://www.esd-j.org/report/kyushuws/>

2023年12月26日（土）19:30-21:00

第5回ESDと生物多様性 「雑談トーク：ヤマネ・いきもの研究所の 2023年をふりかえる」



- 司会：鳥屋尾 健ESD-J理事
- ゲスト：湊 秋作さん・饗場 葉留果さん（ヤマネ・いきもの研究所）
- 参加者：23名(司会1名、ゲスト2名、事務局3名含む)

人と自然の共生の道を長年模索し続けている、ヤマネ・



いきもの研究所のお二人にヤマネ保護活動の経緯や、昨今の生物多様性関連の動きを振り返っていただきました。



饗場さんより日本の天然記念物ヤマネについて、ヤマネの研究について等をご説明いただきました。里山いきもの調査を定期的、継続的に行っており、虫、水生生物、鳥など、ヤマネ以外の生きものについても調査することで、変化等を観察しているそうです。



湊さんからは、田んぼX水路Xため池X森 = 里山であり、まず里山を知ることによって、いきものを守るという活動に繋がっていることが説明されました。調査例として、道路による生息地の分断が生物に与える影響について説明されました。

続いて、アニマルパスウェイについて、加えて環境保全と生物多様性教育についてもご説明頂きました。

次に4グループに分かれ、お二人のお話を聞いて印象に残ったことなど自由に話し合いました。

参加者からは以下のような感想が寄せられました。

- 色々な方と協働していること、皆でやり続けていっしょなことが、何より素敵だと思いました。また、研究を地域や社会に還元することも、ずっと実践されてきていることも素敵です！あと「場所を守る&つくと同時に、担い手を育成しないと」という言葉がとても心に残りました。
- 人工の道路により遺伝子の多様性が影響を受けているのは、衝撃でした。

◆詳細：<https://www.esd-j.org/report/kantows/>



ESD-NET 2030 Global Meeting 参加報告

浅井 孝司理事/浅野 亮理事/事務局 横田 美保

2023年12月18-20日に開催された第1回ESD-NET Global Meetingには、約80カ国から約300名の参加があり、ESD-Jからは浅井理事、浅野理事（1&2日目のみ）、事務局・横田（1&3日目のみ）が参加しました。

ESD-NET 2030とは、2030年に向けたESDの実施を促すことを目指して、加盟国と関係者の双方を支援するために立ち上げられたグローバルなネットワークです。

今回の会議は、以下を目的として開催されました。

- 教育の変革という文脈の中で、ESD for 2030がいかに関連性を強化するかを実証すること
- ESD for 2030プログラムの下で、持続可能な開発の課題に対する体系的な教育的取組（国・地域）を開発すること
- 国・地域レベルでの「2030年に向けたESD」の実施に向けたマルチステークホルダーの関与の強化



奈良教育大学附属中学校の生徒2名も発表！



本イベントに参加しての主な感想は、以下の通りです。

◆浅井理事：今回はESD for 2030 グローバルネットワークの最初の会合ということで、ESDを推進している多くの参加者が集まったことにより、連帯感が生まれるとともに、参加者それぞれが勇気もらったように感じました。実際に対面で話し合うことができた点は大きかったと思います。また、東京中心ではありましたが、フィールドワークで多くの参加者が学校を中心とした日本のESDを知る機会として意義深い会合であったと思います。ただ、参加国に偏りがあったことは否めません。



◆浅野理事：今回参加した方々は国に偏りがあり、研究者や行政トップ、教育関係者やNGO・NPO等の立場の方々が多く、それぞれの立場や視座から抱くESD観での提言や議論に終始していた感が否めませんでした。ESDで目指す人づくりと社会づくりに加え、システムづくりでの変容と変革が、持続可能な未来社会を必要であることを考えさせられた会議でした。わずか2日間の参加でしたが、あの場で出会った方々との繋がりを大切にしていきたいと思っています。何しろ、人のつながり、ビジョンの共有こそがESDにとって生きた教育資源そのものなのですから。

【今後の予定】

2024年6-7月にマレーシアにおいて、ESD-Netのアジア太平洋地域ミーティングが開催されることも発表されました。引き続きESD関係者との情報交換・情報収集をして参ります。



報告詳細は以下ウェブサイトをご覧ください！

<https://www.esd-j.org/report/esd-net-2030-global-meeting/>

令和6年 能登半島地震に対するご支援のお願い



2024年1月1日に能登半島で発生した大地震にあたり、RQ災害教育センターでは現地にRQ能登を立ち上げ、被災地支援の活動を行うこととなりました。1月中に輪島市門前町にRQ能登を立ち上げる予定で、1月下旬より現地で必要な人材、支援を受け入れることを目指しています。珠洲や輪島中心部には現在も規模の大きなボランティア組織が入っていますが、門前町は被害が大きいながら支援の手が薄いためにそこに拠点を置かれるそうです。ESD-Jは長屋仲間であるRQの情報発信をお手伝いすると共に、活動を応援いたします。

RQでは、現地に必要な資金や物資をはじめ現地での活動支援金として、寄付の受け入れ口座を設置しています。寄付金についてはウェブサイトで総額を公開するとともに、事後には使用先について報告されます。皆さまからのご支援をお願い申し上げます。

★詳細：<https://rq-center.jp/news/3386>

RQ能登のFacebookページも立ち上がりましたので、現地の状況や活動をフォローしていただけますと幸いです。

★Facebook：<https://www.facebook.com/RQ.NOTO>



第6回ESD-Jオンラインセミナーのお知らせ

2014年11月愛知県にて開催された「国連持続可能な開発のための教育の10年」から10年が経ちます。この10年間で日本の教育にどの程度ESDが浸透され、実践されてきたでしょうか。

愛知県ではユネスコ世界会議開催に向けて、100を超える学校がユネスコスクールに加盟しました。それらの学校では、現在どのようなESDが実践されているのでしょうか。そして、SDGs達成目標年度まであと6年。SDGs達成に向けて「ESD」は必須の教育です。

この10年間の振り返り、今後のESD、教育の在り方や地域との連携について、愛知県でESD実践をしている教員とともに語り合い、「次」を見出すトークセッションを行います。

- 開催日時：2024年2月24日(土)18:00~20:00
- 開催方法：Zoomによるオンライン方式
- ゲスト：岡崎市立羽根小学校 内田 裕斗先生
東浦町立緒川小学校 研究主任 森 倫子先生
東浦町立緒川小学校 教頭 種村 修一先生
愛知教育大学理科教育講座 教授 大鹿 聖公先生
- お申込みフォーム：<https://forms.gle/5M47mBbRjF2jtzZe7>



◆編集後記：2024年は生物多様性条約 COP16 が開催されます。昨年トルコが大地震に見舞われ会議誘致が困難となり、南米コロンビアで10月21日~11月1日に開催が決まりました。それに先んじて3月13日~18日にケニアで科学技術助言補助機関会合(SBSTTA26)が開催されます。新しい昆明・モントリール生物多様性枠組みの評価やモニタリングの他、合成生物学や遺伝子組み換え、生物多様性と健康といった課題が検討されます。生物多様性は、私たちの食事・医療といった日常生活と密接に関わる重要な課題です。



特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201

TEL：03-5834-2061 FAX：03-5834-2062 MAIL：jimukyoku@esd-j.org

